





令和6年 **12**月暮らしのお手入れ

目次

- (1)  洗濯見直し雑菌防ぐ タオルから嫌な臭いがする
 - (2)  趣味のグッズが片付けられない 愛着や使用頻度で優先順位
 - (3)  食べこぼしのシミは落とせる？ 衣類の素材見極め洗濯機で
-  **12月の住まいのお手入れ - 定期診断のすすめ**



(1) 洗濯見直し雑菌防ぐ タオルから嫌な臭いがする

- *洗濯機の洗濯槽が汚れていても洗濯物は臭くなります。
- *日ごろ水分と汚れにさらされている洗濯槽には細菌やカビが繁殖しやすくなります。
- *定期的に洗濯槽を専用洗剤でクリーニングする必要があります。
- *洗濯槽を選択カゴ代わりにして湿気のある状態するのはご法度。
- *一度に洗濯機に入れる洗濯物は適正な量を守ります。
- *洗濯物を干した後は、できるだけ短時間でしっかり乾かします。
- *生乾きの時間が長いと、その間に洗濯物の繊維の中で細菌がどんどん増えてしまいます。

☆タオルを臭わせない選択のポイント

- できるだけすぐに洗濯
 - *汚れが付着、菌が繁殖した状態で長時間置かない。
 - *特に避けたいのは、濡れた状態のままにすること。
- 一度に洗濯する量を減らす
 - *洗濯機に表示されたキロ数は、乾いた状態での洗濯物の重さ。
 - *その7割目安に減らしてみる。
- 短時間で乾燥
 - *部屋干しならエアサーキュレーターや除湿器を併用するなどして早めに乾かす。

(2024年11月2日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 趣味のグッズが片付けられない 愛着や使用頻度で

優先順位

- *趣味グッズの片付けで重要なのは、「捨てる」ことを目指さないこと。
- *「大切なものを安全に保管すること」を目指し、1点ずつ優先順位をつけます。
- *「直近でいつ使用したか」と「愛着の度合い」で位置づけます。
- *使っていない場合も、愛情が深いものであれば捨てる必要はありません。
- ☆趣味と片付けを両立するポイント

- レンタルサービスを活用
 - *いきなり購入せず、レンタルできるものは使用感を試してから購入する。
- 広告に触れすぎない
 - *SNSではおすすめ商品が目に入りやすい。
 - *つい見過ぎないように心がける。
- 定期的に全部出し
 - *愛着のあるアイテムほど、しまい込まずに全部出して見直しする。
 - *季節の変わり目などに定期的に取り組む。

(2024年11月9日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) 食べこぼしのシミは落とせる？

衣類の素材見極め洗濯機で

- *汚れがきちんと落ちる基準となる洗濯機での洗い方は、「標準」「おまかせ」などのコースを選び、洗浄時間は洗い15分、すすぎ3回、脱水3分の設定。
- *洗剤は弱アルカリ性の洗剤。
- *「衣類を入れ過ぎない」「水量は節水せず増やす」「洗剤は規定量を入れる」。
- *この洗い方の対象は綿、麻、合成繊維の白い衣類。
- *素材が同じでも色がついた服の場合、洗濯機のコースは「標準」「おまかせ」などのコースでよいですが、洗浄時間は洗い10分、すすぎ2回、脱水3分の設定で、中性洗剤を使います。
- *素材がウールやシルクなどは、洗濯機は「ソフト」などのコースにして、洗浄時間は洗い10分、すすぎ2回、脱水3分。洗剤は中性洗剤、水温は常温。

*デリケートな服はクリーニングが向きます。

☆汚れをしっかりと落とすポイント

●素材を確認する

*どんな素材や色かによって、洗濯でできることが変わる。

*洗濯表示と合わせて必ず確認。

●洗濯時間を見直す

*洗いの時間やすすぎの回数が足りないと、汚れが落ちきらない。

●弱アルカリ性の洗剤を使う

*アルカリ性の洗剤は油やたんぱく質、色素などを落としやすい。

*食べこぼしの汚れにも効果的（ウールは不可）。

水温上げて汚れ落としやすく

*汚れを落としやすくするには水温を高めを設定。

*洗濯表示に書かれている数字を確認いして、その水温を上限で洗います。

(2024年11月23日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



12月の住まいのお手入れ – 定期診断のすすめ

*100%メンテナンスフリーの住宅は存在しません。

*住宅に使われている部材は耐用年数も様々で、環境の変化に伴い微小な膨張収縮を繰り返しています。

*台風や地震などにより、大きな力が加わることもあります。

*時間の経過とともに色々な所で小さな不具合が出てくるのは当然のことです。

*大切なことは不具合を小さな段階で発見し、原因に応じた適切な処置をすることです。

*不具合を放置しておくとも不具合が不具合を呼び、いずれは重大な欠陥となり、住まいの快適性や安全性が損なわれます。

*不具合をできるだけ早く見つけ、最小限の処置ですませるために実行したいのがわが家の「定期診断」です。

*定期的な診断と適切な処置を行えば、木造の建築物は100年以上の寿命を潜在的に持っているともいえます。

(参考：NPO法人家づくり援護会「わが家の診断&対処法」)

